

学校だより

# 津久戸

8月号

令和2年7月31日

新宿区立津久戸小学校

## あいさつで伝えたいこと

副校長 古川 卓也

「あなたが噂の副校長・・・。」

これは、私が校内を巡回していたときに児童からかけられた言葉です。話を聞いていると、どうやら私という存在を校内で初めて見かけたという意から発せられたことが分かってきました。

今年度より着任した私は、児童全員の前で話していません。それは、新型コロナウイルス感染症の影響です。これまで子ども達に校内を巡回する以外で「この人が副校長先生だ」と印象付ける場面がいくつあったのかを考えさせられます。休校期間中に全教員が出演した「手洗い動画」にマスク姿で一瞬映り、その後は、学校だよりに着任のあいさつを書いたり、避難訓練の放送などで避難誘導を促したりと、文字や声での登場が圧倒的でした。一年生は入学式で司会をしたこともあり、人物認知度も高く、「ふくこうちょう～せんせい～」と声をかけてくれます。自然と笑顔があふれてきます。あいさつという行為は、人に安心感や元気、笑顔を与えてくれるものなのです。

今、コロナ禍により大きな声を出すことを躊躇する場面があるのは事実です。人との距離を置く

ことが優先されてもいます。マスクを着用することで、児童は大きな声を出してはいけないとの気持ちが強くなったり、飛沫感染防止の教えを忠実に守っていたりしているとも考えられます。

担任をしていた頃、「おはよう」「さようなら」「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」などの言葉には、人を幸せな気持ちにさせたり、自分自身に元気などを注入したりする力があると、私は考え、「すすんであいさつをしよう」と指導・実践を重ねてきました。4月からは、皆がマスクを着用するなかで、新しい生活様式におけるあいさつを考えていました。あいさつの言葉を発することは、やはり大切です。マスクの着用により、基本口元は見えません。だからこそ、顔の表情や、会釈等のしぐさが重要になります。先に配布した学校経営方針では、世界どこでも通用する「立ち居振る舞い」を身に付けることを掲げています。新しい生活様式におけるあいさつ指導もその一環となります。ソーシャル・ディスタンスに負けない、表情やしぐさなどを豊かに表現できる指導や機会をより心がけます。

今までと変わらぬ気持ちを込め、明日も子ども達を迎えます。あいさつとは、幸せと元気をくれるすてきな言葉やしぐさであることを伝えていきます。